

# 母の海通信 Vol.3

発行 2022年 9月15日  
秋

みなさま、おきげんよう。秋風吹く日々いかがお過ごしですか？ 私たちは、野母崎樺島へ移住して丸二年が経ちました。早いなぁと振り返ることもあり、向かいますが、地域のこころ、地元のこころを知っていくのが、この地で生きる上での精神的豊かさを得る。こころと実感しております。風の強さも、体感（加藤笑平）は美術をはじめ22年経ちます。今も実は絵画制作や、ホームページ作品も発表したりと積極的に取り組んでいきます。その中で、塩がりのりと通して出会える人、美術と通して出会える人は全然違うのですが、その二つの現場でとれどおれおれ交差して、新しい出会いとつながり、意外なつながりや気付きにいたりして、得るものが多くあります。

私の塩づくりの師、天草塩の会、松本明生氏はお世帯に旅人、旅人、音楽家、心相心家、心相心家が帯に交流してました。

塩という、生きていく上で大切なこと、無機物と通じた有機的なつながりは、一過性では終わらない素敵な関係性こそ、もとの絆を結んでいます。

三三樺島にも、沢山の人がおられます。素敵な場をつくりたいなあって、と、島の人たちと交流して新たな出会いがうまれたらいいなと。

身体の不調、  
心医者なく  
治すのは、  
そう  
アツアツ♡

外国の人  
たちに、  
よく聞かれます。  
日本の人、  
風邪ひいたら  
どこで病院に行くの？

その土地、  
風土に合わせて  
家庭医療があるが

やっぱり日本の古くがが伝わる物では  
すばらしい...♡(のりがゆ〜)

膜月相、よく噛み  
唾液をいかに出す。  
白砂糖・輸入ものを避け  
地元のものをいただく...

体調不良は、  
アツアツの、カラダから  
のお届けのもの...

身体を守り、周りの皆と  
健康に生きていく  
本来の姿・形と  
みなバは知っている。

井戸端、  
笑い  
声!!

よく歩み  
足腰が強い

口の中へ  
×  
×  
×

いって  
外へ外へ

生薑  
いり汁

梅孔  
醤油一匙

樺島、野母崎に(長崎)お住みの方で、  
じりぞ一度足を運んでいただけたら  
嬉しいです。特別なお土産は出来ませんが  
日々精一杯、様々な想いと原色込めて  
火入の「野母崎の海」の塩を体感いただき  
ください。わたしたちもこころ繋げてくれた  
先人の方々に代わって、初心を忘れずに、  
温かい食卓を囲み、自然に囲まれ、音と奏  
杯を交わに語り合えたらとおもいます。  
九州、全国からお待ちしています。  
みなよいしありがとう!!感謝を込めて、

9月24日  
金閉き  
毎日  
塩  
西ツ叔

感謝を込めて